

第52回 姫路文化賞

あいおいへいわきねんひをまもるかい

相生平和記念碑を守る会（平和活動）

『相生平和記念碑（韓国・朝鮮人無縁仏之碑）』（相生市相生東部墓園）は1995年11月1日に完成し、落慶・追悼法要が、相生と韓国の導師や相生市長をはじめ内外150人の参列で挙行された。相生市では、県下最多の朝鮮人の強制連行者が、播磨造船所（現IHI相生事業所）で隔離宿舎に入り、苛酷な労働を強いられ、逃亡者もかなり出、多くの人が亡くなった。

平和記念碑を守る会は、在日本大韓民国民団（民団）と在日本朝鮮人総連合会（朝鮮総連）が、「立場を超え、慰霊碑建立に尽力しよう」と共に手を携え、中心となり、約4500人の賛同者を集め、日本で初めて慰霊碑を建立した。この相生方式は類例のない見事な活動として、高く評されている。

毎年11月に慰霊祭を開き、冒頭に『海峡を渡ってきた人』（作：高須剛）を朗読。朝鮮民族の歌や踊り、演奏など多彩なパフォーマンスを奉納している。

2007年11月の第13回慰霊祭で、韓国政府から在外法人として世界で初めて「歴史・文化」で交流し、活躍していることを讃えて助成金が贈られ、2014年の第20回記念の慰霊祭で相生市長から文化交流と国際親善への貢献に感謝状が贈られた。

創 立 1992（平成4年）年2月11日

朝鮮総連と韓国民団が心をつにして

「朝鮮人無縁仏の碑建立実行委員会」結成

1995年「相生平和記念碑を守る会」に改称

会 長 金 清 一

活動歴

1991年、相生市の善光寺から朝鮮人の無縁仏60体が発見され、「朝鮮人無縁仏の碑建立実行委員会」が結成され、広く募金活動を展開し、約4500人の賛同者を集めた。

1995年韓国・朝鮮人無縁仏の碑が「平和記念碑」として完成。11月1日に落慶除幕式法要を行って以来、毎年11月の第一日曜日に追悼式を行う。本年11月6日第22回を迎えた。また、阪神大震災でなくなった同胞の孤独死された遺骨5柱の供養を毎年1月17日に回向。

さきの悲惨であった戦争を風化させない為にも慰霊は勿論のこと、世界の平和を祈念する祭典でもあり、鎮魂の儀としてイベントも大切に盛大に行ってきた。

今までのイベントとしては相生芸能集団太鼓「野華」、韓国の歌手ソン・ビョンフィさんの歌、情野千里さんの鎮魂の舞。大阪「柳会」扇の舞、幼稚園児による和太鼓、天父報恩鼓、播州労音によるサムルノリ演奏、糟谷尚子さんの韓国民謡、四国88カ所13番札所「大日寺」住職金昴先（キム・ミョソン）師の「僧舞」などなど。

フィールド・ウォーク学習、見学として九州飯塚炭鉱徴用者無縁仏慰霊碑建立の為の研修、広島教師や大阪NPO多民族人権センター一行50名が「戦争の遺跡と徴用」の学習など多くの学習や研修を受け入れている。

韓国民族芸術団「クンドゥル」からは日本公演の毎に、故郷に帰れなかった無縁仏を慰める鎮魂のサムルノリの奉納を受けている。

第52回 姫路文化賞

じょうみんがくしゃ

常民学舎（平和活動）

常民学舎は1987年（昭和62年）1月に創立され、今年30周年を迎えた、一般有志による民俗学研究団体。

「常民」を地域の生活や慣習を連綿として継承してきた普通の人々（庶民）と定義、「常民の常民による常民の歴史・民俗の掘り起こし」をスローガンに活動をつづけている。

「常民学の学び舎」として、播磨の歴史・民俗の解明と姫路を中心とする播磨地方の後世まで残さなければならない有形無形の文化財や、無名の人々による伝承を守るために、歴史民俗誌『S a l a（サーラ）』を年2回編集刊行している。

代 表 難波 正司

活動歴

1987年 1月創立

4月、『S a l a』第1号を発刊

以後、年2回の発刊を欠かすことなく続ける

2016年 創立30周年をむかえる

8月、『S a l a』記念号の60号を発刊 発行部数各号500部

◇「庭」の講座は現在まで12回開催、庭園研究家の西桂氏が担当。

◇「石」の講座は「石と語る」と銘打って、盃状穴研究家の三浦孝一氏が担当、現在まで40回開催。

◇「花」の講座は高校教諭の藤原正人氏が担当、現在まで37回開催。

◇また、以前には故・島田清氏により野外歴史講座を開催。

以上、30年間で累計108講座を開催した。

◇現在、難波正司代表による「歴史講座」を毎月第1金曜日に開催している。

文化功労賞



たなびき しん 田磨 新（文学）

大学在学中より、戦後派の代表的作家・椎名麟三と親交をむすび、30年間にわたって出身地である姫路市書写から離れていた椎名を郷里へと回帰させ、そのことが椎名を核としてミュージカル「姫山物語」が上演されるなど姫路における文化活動の盛況をもたらすこととなった。

椎名の死後も、椎名文学の研究と顕彰をライフワークとして献身的に努力、『椎名麟三管見』『小説椎名麟三』『書写恋しや夢前夢後』を刊行。書写山上の椎名麟三文学碑（1980年）、椎名の旧居跡（書写東坂）の文学碑（2009年）建立に尽力するほか、「椎名麟三を語る会」の設立に参加、副会長として「自由忌」を主催している。

また自身も早くから文芸同人誌「雑踏」などにより小説の創作をつづけ、1995年復刊後の「姫路文学」同人としても活動、1997年には、江戸時代中期の姫路藩全域におよぶ大規模な農民一揆を題材とした小説『播磨寛延一揆』を刊行した。

略 歴

- 1932年 姫路市に生まれる
- 1954年 椎名麟三と文通が始まり、12月に書写へ案内する
- 1958年 同人誌「雑踏」に小説発表
- 1964年 同人誌「十日」に小説発表
- 1976年 第1回神戸文学賞受賞
- 1980年 椎名麟三没後、書写に文学碑建立
- 1984年 「自由忌」世話人
- 1993年 「椎名麟三を語る会」参加
- 1996年 「姫路文学」同人
- 1999年 神戸市文化功労賞受賞

主な著書

- 1978年 『シールブラウンの神々』宝塚出版
- 1991年 『椎名麟三管見』神文書院「姫路文学散歩」共著
- 1994年 『小説椎名麟三』成星出版
- 1997年 『播磨寛延一揆』成星出版
- 1999年 『長澤芦雪と三つの短歌』宝塚出版
- 2000年 『姫路文学選集』兵庫県下文脈体系⑥風来舎 共著

第34回 黒川録朗賞



いとう じゅんすけ

伊藤 淳介 (音楽)

中学生の時に海外アーティストのライブ・ドキュメンタリーのビデオを見て、強烈な衝撃を受け、音楽に目覚め、ブルースやロックを演奏。20歳ごろ、ジプシー・ジャズの創始者ジャンゴ・ラインハルトの演奏を聴いて強く惹かれる。

2000年、ロックをやるならとアメリカ映画の影響もあり渡米を決意し、アメリカの音楽学校を経て、ロックバンドを中心に活動していたが、2007年頃から、ジプシー・ジャズを演奏し、ロスアンゼルスにて、ライブを開始。その頃よりジプシー・ジャズ特有のマカフェリギターを演奏するようになる。

2008年に帰国後はソロ活動やジプシー・ジャズ・バンド『Mon Dieu (モンデュー)』を結成し、そのリーダーとしても全国的に活躍している。

探究心、努力、妥協のない姿勢からうまれる彼の熱い演奏は、ジプシーの伝統音楽とスウィング・ジャズを融合させた、まだまだ珍しい音楽とされるジプシー・ジャズの魅力を多くの人々に伝えている。

プロフィール

2000年渡米し、アメリカの音楽学校 (Musician Institute) を経て、ロスアンゼルスでロックバンドを中心に活動し、映画音楽のレコーディングや様々なバンドでライブ、セッションを行う。

2007年頃よりジプシー・ジャズを演奏し、ロスアンゼルスにて、ライブを開始する。その頃よりジプシー・ジャズ特有のマカフェリギターを演奏するようになる。

2008年帰国後は、ソロ活動やジプシー・ジャズ・バンド『Mon Dieu』を率いて全国的にライブやコンサートを行う。

「大阪ミナミジャズウォーク」、「神戸ジャズストリート」に毎年出演。

NHK『ジャズライブKOBÉ』にも定期的に出演する。

第34回 黒川録朗賞



えとう ゆうぞう
江藤 雄造 (漆工芸)

彼の34年の人生には、漆芸家として自立していく為の要素があちらこちらに見えてくる。

まず、蒔絵師、江藤國雄氏の長男として生を受けた事。そして、中学生の時にはすでに「父の跡を継いで漆の仕事がしたい」との、信念がハッキリとしていた事。その上、何よりも大切な「真摯に物事に取り組み、教えを受け、ひたむきに前向きに休まず努力できる！」という性質を持っている事である。物づくりに取り組む作家にとって、一番必要な条件である。

その結果として、若くして数々の良き作品をつくり、また、文化財の修復など重要な仕事を任される次第となっている。

もう一方では、漆の世界に目を向けてもらう様、種まきもしている。各地で金継ぎ教室を開催して、好評を得ている。わかりにくい伝統工芸にスポットライトを当てているのである。

作品は日本伝統工芸近畿展で「新人奨励賞」、兵庫工芸展での「大賞」など多数の展覧会で認められ、繊細でモダンな作風が、確かな技術で裏打ちされている。今後の活躍に期待できる非凡な才能である。

略 歴

- 2001年 兵庫県龍野実業高校デザイン科卒
- 2013年 香川漆芸研究所卒業
三ノ宮（サンチカホール）、山陽百貨店にてグループ展
- 2014年 日本伝統工芸近畿展「新人奨励賞」
兵庫工芸展 公募の部「大賞」
播磨の工芸5人展
2015年 2015 播磨・工芸ビエンナーレ「播磨工芸会賞」
三ノ宮（サンチカホール）、山陽百貨店にてグループ展、姫路にて親子展
- 2016年 ギャラリー・とくにて個展

修復関係

- 2003年 岐阜県 重要文化財 南宮大社 社五棟彩色
- 2004年 姫路市 名古山仏舎利塔 欄干漆塗修復
- 2008年 茨城県 東漸寺 厨子四本現状維持修理
- 2009年 栃木県 足利市法玄寺 青面金剛像・脱衣婆像現状維持修復
- 2010年 姫路市 名古山仏舎利塔 十二神将 極彩色 欄干漆塗
- 2012年 高砂市 生石神社 能舞台彩色
- 2013年 京都府 円福寺本堂内陣 漆塗
- 2014年 奈良県 桜井市長谷寺 奈良県指定文化財 一切経蔵修復
- 2015年 奈良県 春日大社 漆塗
石上神宮 床の間修復

第34回 黒川録朗賞



さかね たけし

坂根 武 (文学)

学生時代より国内外の文学を耽読、とりわけドストエフスキーには深い感銘を受け、その後50年にわたって研究をつづけた。1993年ごろ「文芸日女道」に入会し、翻訳や、万葉集をとりあげるエッセイのほか、数々のドストエフスキー論を執筆発表。昨年にはその集大成として、『わが魂の「罪と罰」読書ノート』（編集工房ノア）を刊行した。本書は、美しい詩的文体で綴られたドストエフスキー讃歌であると同時に、哲学的な思索にもとづいた精密な心理解析の書である。研究と批評の両立から、奥行きと広

範さを兼ね備えた仕事ぶりは見事である。

略 歴

1942年 12月13日生まれ

1955年 淳心学院中高等学校入学

1961年 卒業

1961年 同志社大学文学部英文科入学

1968年 卒業 以後、高校教師をつとめる

1993年 同人誌「文芸日女道」入会

現在にいたるまで精力的にエッセイや評論を発表。最近は「万葉集」の鑑賞に健筆をふるっている。

2015年 『わが魂の「罪と罰」読書ノート』（編集工房ノア）刊行

淳心学院中学で受けた宗教教育、とくに教会でのミサの体験が、宗教に関心をもつ原点となり、その意識が、罪とは、罰とは何かを問いただす『罪と罰』のような作品に強く惹かれる理由となる。大学では英語教師の資格をとれる英文科を選ぶも、ドストエフスキーのような型破りな作家がないので英文学にはあまり興味がもてず、フランス、ロシア文学を耽読。

「三田文学」会員、「読書会通信」会員

第34回 黒川録朗賞



みわ しゅうたろう

三輪 周太郎（銀細工）

銀細作家として、自然体であるがゆえに見出せる技で、実に繊細なところまで作りこむ、多様な作品作りで活躍しています。近年は地質学を学び、自ら掘り出し、削り、仕上げるといふ、真の鉱石の魅力を引き出すことに、精力的に取り組んでいます。芸術文化活動として、ひめじクラフト・アートフェアを5年間引き継ぎ、播磨の地にクラフト・アートを定着させました。子どものような目の輝きとボランティア精神は、人を呼び、繋がりを深め、この時代に欠かせない存在になっています。

作家として、又代表としての経験を生かし、益々、幅広い活動が期待されます。

略 歴

- 1978年 姫路市生まれ
- 1996年 日本宝飾クラフト学院基礎コース 入学
- 1997年 大谷宇司氏に師事
- 1999年 独立以降は全国のクラフト展等に出展
- 2005年 ひめじクラフト・アートフェアに参加

出展、出品抜粋

- 2003年 ひめじクラフト・アートフェア出展 以降、毎年出展
- 2005年 松本クラフトフェアに出展、佐賀（開明の道）福岡（ガレリグノム）初個展
- 2006年 大阪大丸（風水土のしつらい展）参加 以降、毎年出展
- 2009年 札幌（石の蔵ぎやらりい はやし）個展
- 2010年 銀座（ギャラリー江）2人展
- 2013年 愛知（槐）個展、 ななつぼし in 九州・銀製トングを制作
牛窓 クラフトピクニック出展
- 2014年 姫路（ギャラリーとーく）個展
- 2016年 香川（shopmo.:）2人展

第34回 黒川録朗賞



やぶた しょういち

藪田 翔一 (作曲)

2015年、世界最高峰の権威を持つ、記念すべき第70回ジュネーヴ国際音楽コンクールに於いて、日本人として初めて作曲部門で優勝しました。

17歳から作曲を始め、東京音楽大学大学院作曲科を終了し、国内外問わず、幅広く活躍されています。作曲した曲は、スイス、オーストリア、ベルギー、フランス、ポーランド、スペイン、クロアチア、ポルトガル、アメリカ、フィリピンなど海外でも演奏されています。

現代音楽の作曲を中心に、たつの市で開催された龍野アートプロジェクトで舞台監修や音楽監督を務め、2016年には「たつのふるさと親善大使」第1号に任命されるなど地元の音楽活動にも貢献されています。

世界が注目する気鋭の若手作曲家となった初の作品集が『天女の歌声 ～藪田翔一 歌曲集～』です。日本の美しい詩人たちの言葉に叙情的な旋律が、あたらしい命を吹き込んだ意欲作として話題をよんでいます。

略 歴

- 1983年 たつの市に生まれ、17歳より作曲を始める。2011年東京音楽大学大学院作曲科修了。これまでに作曲を飯塚邦彦、有馬礼子、糺場富美子、西村朗、藤原豊の各氏に師事
- 2009年 第78回日本音楽コンクール作曲部門2位入賞
- 2010年 第79回日本音楽コンクール作曲部門2位入賞
- 2011年 トロンボーンピース・オブ・ザイヤー 2011 作曲賞
第80回日本音楽コンクール作曲部門2位入賞
たつの市市民奨励賞
- 2012年 京都フランスアカデミーメシアン賞
第81回日本音楽コンクール作曲部門2位入賞
- 2013年 ウィーンコンチェルトハウス 100周年作曲賞最優秀作品賞（オーケストラ部門）
ベルギー SORODHA 国際作曲コンクール1位入賞
カジメッシュ・セロツキ国際作曲コンクール3位入賞
- 2014年 第3回クロアチア国際作曲賞 NEW NOTE 2位入賞
第3回高松国際ピアノコンクール課題曲委嘱作曲家
- 2015年 第70回ジュネーヴ国際音楽コンクール作曲部門優勝
たつの市文化賞
兵庫県芸術奨励賞
- 2016年 文化庁長官表彰（国際芸術部門）
第26回出光音楽賞受賞

プロフィール

現代音楽の作曲を中心に、2014年に兵庫県たつの市で開催された龍野アートプロジェクトで舞台監修を務め、2015年、2016年には音楽監督、2016年よりたつのふるさと親善大使第1号に任命され、2016年5月より神戸新聞のコラム「随想」を執筆するなど、活動の場を広げています。2016年3月には、三木露風、中原中也、与謝野晶子などの詩をもとに、CD『天女の歌声～藪田翔一 歌曲集～』を代々木アニメーション学院との共同製作によりリリース。たつの市音楽協会会員。